

科目名	人間の尊厳と自立	講師名	野田 朋法
授業形態	講義	履修時間数	30 時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科 1 学年
授業の目的	人間の理解を基礎として人間としての尊厳の保持と自立した生活について理解をする。課題を解決できる倫理的思考と尊厳について基礎力を身に付ける		
回数	授 業 内 容		
1・2	オリエンテーション(授業の概要について)		
3・4	人間の尊厳と利用者主体① (人間を理解すること/尊厳の概念について)		
5・6	人間の尊厳と利用者主体② (人間の尊厳と利用者主体)		
7・8	人権・福祉理念の変遷① (諸外国の人権・思想・福祉理念の変遷)		
9・10	人権・福祉理念の変遷② (日本の人権・思想・福祉理念の変遷)		
11・12	人権・福祉の理念① (ノーマライゼーション)		
13・14	人権・福祉の理念② (生命の倫理)		
15・16	演 習		
17・18	人権尊重と権利擁護① (利用者視点)		
19・20	人権尊重と権利擁護② (権利侵害・権利擁護)		
21・22	自立について① (自立の概念)		
23・24	自立について② (自立と自律・自己決定・自己選択)		
25・26	自立支援について① (介護を必要とする人々の自立と自立支援)		
27・28	自立支援について② (介護を必要とする人の尊厳の保持と自立・自立支援)		
29・30	総 括 (演習)・まとめ・振り返り		
使用テキスト： 最新・介護福祉士養成講座 1 「人間の理解 (第 2 版)」 (中央法規出版)			
参考書： 授業中にプリント等を配布予定			
視聴覚教材： 板書・パワーポイント・授業に関係する映像の視聴 (適時)			
成績評価方法： 出席状況・筆記試験・確認テスト・提出物・授業態度による総合判断			
学生に望むこと：SDGs の一環として多様性を受け入れる社会の実現が求められているので意識を高く持って、将来、介護福祉士としてあるべき姿だけではなく一人の人間として生きていく為に、歴史的背景も含め、必ず事前学習をし、人権・尊厳・自立について修学して欲しい			
担当教員の資格・経歴等： 介護福祉士・介護施設施設長 5 年以上・教員 10 年以上			

科目名	人間関係とコミュニケーション	講師名	専任教員
授業形態	講義・演習	履修時間数	30時間
授業期間	通年	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養う。		
回数	授業内容		
1・2	人間の誕生とケアの関係・自分を形成する要素		
3・4	他者を理解する・自己覚知・自己開示		
5・6	対人認知と人間関係		
7・8	関係づくりのための人間の理解（グループ活動・ボランティア計画）		
9・10	関係づくりのための人間の理解（グループ活動・ボランティアの実施）		
11・12	集団のなかの人間関係		
13・14	人間関係とストレス		
15・16	前期振り返り		
17・18	コミュニケーションの概念 コミュニケーションの基本構造		
19・20	コミュニケーションの手段		
21・22	対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション		
23・24	対人援助における基本的態度		
25・26	組織の条件とコミュニケーションの特徴		
27・28	組織において求められるコミュニケーション		
29・30	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第1巻「人間の理解」（中央法規出版）			
参考書：資料などはその都度配布する			
視聴覚教材：ビデオ・DVD・パワーポイントなど			
成績評価方法：筆記試験・出席状況・ファイル管理・提出物・受講態度等による総合評価			
学生に望むこと：基本的なコミュニケーション技術が身に付くよう積極的に取り組むこと			
担当教員の資格・経歴等：看護師 介護福祉士			

科目名	人間関係とコミュニケーション	講師名	専任教員
授業形態	講義・演習	履修時間数	30時間
授業期間	通年	対象学科学年	介護福祉学科 2学年
授業の目的	介護実践において、チームで働く力を養うためのチームマネジメントの基礎的知識を身につける。		
回数	授 業 内 容		
1・2	ヒューマンサービスとしての介護サービス		
3・4	介護現場で求められるチームマネジメント		
5・6	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み ケアを展開するためのチームマネジメント		
7・8	活動計画の立案（活動チームを作り運営 目標をあげる・実施内容をあげる）		
9・10	活動計画の実施準備		
11・12	計画の実施		
13・14	実施の評価 チームの力を最大化するためのマネジメント		
15・16	前期振り返り		
17・18	介護福祉職のキャリアと求められる実践力		
19・20	キャリアパスとキャリアデザイン		
21・22	介護のPR活動にむけて		
23・24	介護のPR活動		
25・26	PR活動後の報告書作成・発表		
27・28	介護サービスを支える組織の機能と役割		
29・30	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第1巻「人間の理解」（中央法規出版）			
参考書：資料などはその都度配布する			
視聴覚教材：ビデオ・DVD・パワーポイントなど			
成績評価方法：筆記試験・出席状況・ファイル管理・提出物・受講態度等による総合評価			
学生に望むこと：基本的なコミュニケーション技術が身に付くよう積極的に取り組むこと			
担当教員の資格・経歴等：看護師 介護福祉士			

科目名	社会の理解 I	講師名	齋田 和樹
授業形態	講義・演習	履修時間数	30時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	時代とともに変容を遂げてきた「日本型福祉社会」を概観し, 家族や地域、制度と個人の生活がどのように関わっているかについて理解すると共に日本の社会保障制度について学習する。		
回数	授 業 内 容		
1・2	生活を幅広くとらえる		
3・4	生活の基本機能		
5・6	ライフスタイルの変化		
7・8	家族・社会・組織の機能と役割		
9・10	地域社会における生活支援		
11・12	地域福祉の発展①		
13・14	地域福祉の発展②		
15・16	地域共生社会、地域包括ケア		
17・18	社会保障の基本的な考え方		
19・20	日本の社会保障制度の発達①		
21・22	日本の社会保障制度の発達②		
23・24	日本の社会保障制度のしくみ①		
25・26	日本の社会保障制度のしくみ②		
27・28	現代社会と社会保障制度		
29・30	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第2巻「社会と制度の理解」第2版（中央法規出版）			
参考書：各種リーフレット			
視聴覚教材：PPT、DVD等			
成績評価方法：出席状況、筆記試験、受講態度等による総合評価			
学生に望むこと：「福祉専門職」に求められる基本的な社会理解及び人間理解が深まることと、福祉を実践する上で必要となる思想、歴史や制度について関心を持って学びに取り組んでください。			
担当教員の資格・経歴等：社会福祉士			

科目名	社会の理解Ⅱ (社会保障制度)	講師名	齋田 和樹
授業形態	講義・演習	履修時間数	30時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	高齢者保健福祉に関連する諸制度について概要を理解する。障害者保健福祉と障害者の自立とそれを支える諸制度や諸施策について基礎的知識を習得する。また、福祉・権利擁護に関する諸制度の概要を理解する。		
回数	授 業 内 容		
1・2	高齢者保健福祉の動向		
3・4	高齢者保健福祉に関連する法体系①		
5・6	高齢者保健福祉に関連する法体系②		
7・8	個人の権利を守る制度・施策①		
9・10	個人の権利を守る制度・施策②		
11・12	保健医療に関する制度・施策		
13・14	貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策		
15・16	地域生活を支援する制度・施策		
17・18	障害と障害者の概念と障害者保健福祉施策の動向		
19・20	障害者保健福祉に関する法体系		
21・22	障害者総合支援法（概要とサービス利用の流れ）①		
23・24	障害者総合支援法（概要とサービス利用の流れ）②		
25・26	障害者総合支援法（サービスの種類と内容）		
27・28	障害者自立支援制度に関わる組織とその役割		
29・30	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第2巻「社会と制度の理解」第2版（中央法規出版）			
参考書：各種リーフレット			
視聴覚教材：PPT、DVD等			
成績評価方法：出席状況、筆記試験、受講態度等による総合評価			
学生に望むこと：事前学習をして授業に臨み、事後学習により知識の定着を期待します。対象者を支援する上でも欠かせない分野であると同時に、私たちの生活にも密接している分野です。関心を持って取り組んでください。			
担当教員の資格・経歴等：社会福祉士			

科目名	社会の理解Ⅱ (社会保障制度)	講師名	関本 崇詞
授業形態	講義・演習	履修時間数	16時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科 2学年
授業の目的	介護福祉士が理解しておかねばならない社会保障制度の中の高齢者領域における施策である介護保険制度、また関連法を学習する。		
回数	授業内容		
1・2	介護保険制度創設の背景と目的		
3・4	介護保険制度の概要とその仕組み①		
5・6	介護保険制度の概要とその仕組み②		
7・8	介護保険制度における組織、団体の役割		
9・10	介護保険制度における介護支援専門員の役割		
11・12	介護保険制度の動向		
13・14	ワークショップ		
15・16	総括		
17・18			
19・20			
21・22			
23・24			
25・26			
27・28			
29・30			
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座 第2巻「社会と制度の理解」（中央法規出版）			
参考書：適宜プリント配布、参考文献の紹介を行う			
視聴覚教材：			
成績評価方法：筆記テスト、受講姿勢等による総合評価			
学生に望むこと：①介護福祉士は専門職（プロフェッショナル）であることを意識して、関与できる力を身に付けて欲しい。②社会システムにどのように主体的に貢献できるかを考える力を身に付けて欲しい。③疾病を持ちながらも、どのようにすれば生活のサポートができるかの思考を膨らませる力を身に付けて欲しい。			
担当教員の資格・経歴等：社会福祉士、主任介護支援専門員			

科目名	人間と法	講師名	関本 崇詞
授業形態	講義	履修時間数	20時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	介護福祉士が理解しておかねばならない人間の尊厳と自立、それに関する制度を理解すると共に、それらの法的根拠を学ぶことで専門職に必要な視点を身に付け、日常業務に活かせるようになる。		
回数	授 業 内 容		
1・2	人間の尊厳と利用者主体、人権思潮の潮流とその具現化		
3・4	人権や尊厳に関する日本の諸規定		
5・6	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷－人は人をどう援助しようとしてきたか		
7・8	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷－戦後の新たな福祉のあり方への模索		
9・10	人権尊重と権利擁護		
11・12	自立の概念と多様性、自立とは		
13・14	介護を必要とする人々の自立と自立支援		
15・16	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援の関係性		
17・18	サービス利用に関する制度・施策（成年後見制度、日常生活自立支援事業）		
19・20	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座 第1巻「人間の理解」第2版（中央法規出版） 最新・介護福祉士養成講座 第2巻「社会と制度の理解」第2版（中央法規出版）			
参考書：適宜プリント配布、参考資料の配布を行う			
視聴覚教材：			
成績評価方法：筆記テスト、受講姿勢等による総合評価			
学生に望むこと：福祉専門職が行っている業務には、法的根拠があることを意識しながら、 日常業務にあたることができるようになって欲しい。また、人が人を支援することの大切さを、法的な理解と共に行っていくようになって欲しい。			
担当教員の資格・経歴等：社会福祉士、主任介護支援専門員			

科目名	情報処理	講師名	川並 正
授業形態	講義・演習	履修時間数	30時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科 2学年
授業の目的	情報化社会の進展に対応した社会生活に必要とされるパソコンを、正しくかつ有効に活用する上で、情報倫理・ITリテラシー等を身につけ、情報処理技術の習得と、それを使った表現能力を育成する。		
回数	授 業 内 容		
1・2	ガイダンス、実習環境説明、動作確認、Windows基本操作		
3・4	情報処理に関するマナー（メール・SNS等）・セキュリティ等		
5・6	Windows操作		
7・8	Office共通操作（機能）		
9・10	Office共通操作（画像関係）		
11・12	Wordの基礎操作(1)		
13・14	Wordの基礎操作(2)		
15・16	Excelの基礎操作(1)		
17・18	Excelの基礎操作(2)		
19・20	PowerPointの基礎操作(1)		
21・22	PowerPointの基礎操作(2)		
23・24	課題の取り組み（アウトライン、スライド作成）		
25・26	課題の取り組み（スライド作成、ノート作成）		
27・28	発表準備（リハーサル）		
29・30	総括 課題発表会		
使用テキスト：都度講義内にて説明			
参考書：特に使用せず。各自、講義用にメモを準備すること。			
視聴覚教材：パソコンルーム機器一式を利用			
成績評価方法：課題に対する取組状況、学習態度、出席状況より総合的に判断する。			
学生に望むこと：業務遂行上で使いこなせる様、スキルアップに努めてほしい。			
担当教員の資格・経歴等：第二種情報処理技術者、ソフトウェア開発 31年			

科目名	総合学習	講師名	専任教員
授業形態	講義・演習	履修時間数	24時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科 2学年
授業の目的	国家試験に向けて介護福祉士としての基礎知識をより確かなものにし、介護福祉士としての総合的な能力を高めることを目的とする。		
回数	授業内容		
1・2	介護福祉士 全国統一模擬試験（第1回目：前期）		
3・4	人間の尊厳と自立・人間関係とコミュニケーション・総合問題		
5・6	社会の理解・総合問題		
7・8	介護の基本・生活支援技術・総合問題		
9・10	コミュニケーション技術・総合問題		
11・12	介護過程・総合問題		
13・14	発達と老化の理解・総合問題		
15・16	認知症の理解・総合問題		
17・18	障害の理解・総合問題		
19・20	こころとからだのしくみ・医療的ケア・総合問題		
21・22	介護福祉士 全国統一模擬試験（第2回目：後期）		
23・24	学力評価試験（介養協）		
使用テキスト：介護福祉士国家試験 模擬問題集（中央法規出版）、各教科の教科書持参			
参考書：国試ナビ			
視聴覚教材：			
成績評価方法：各試験科目のテスト・模擬問題による評価			
学生に望むこと：国家試験受験に向けた学習として事前学習をして授業に臨み、苦手分野の克服に繋がるよう復習もしっかりして欲しい。			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士 介護教員			

科目名	介護の基本 I	講師名	一島 昌子
授業形態	講義	履修時間数	60時間
授業期間	通年	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	介護の変遷を知り、介護における「尊厳の保持」「自立支援」の考え方を理解し「介護を必要とする人」を生活の観点からとらえる。また、介護における安全やチームケア等について理解する。		
回数	授 業 内 容		
1・2	介護福祉を取り巻く状況	31・32	私たちの生活の理解
3・4	介護福祉の歴史①	33・34	介護福祉を必要とする人たちの暮らし
5・6	介護福祉の歴史②	35・36	「その人らしさ」と「生活のニーズ」の理解
7・8	介護福祉士の基本理念	37・38	生活のしづらさの理解とその支援
9・10	社会福祉士及び介護福祉士法	39・40	利用者の生活を支える仕組み インフォーマルサービスとは
11・12	介護福祉士の活動の場と役割	41・42	インフォーマルサービスとは ／地域連携
13・14	介護福祉士を支える団体	43・44	介護における安全の確保 (リスクマネジメント)
15・16	介護福祉士の倫理	45・46	リスクマネジメントとは何か
17・18	介護福祉士における自立支援	47・48	感染症対策
19・20	自立支援の考え方	49・50	多職種連携・協働の必要性
21・22	ICFの考え方	51・52	保健・医療・福祉職の役割と機能
23・24	自立支援・ICF(演習)	53・54	多職種連携・協働の実際
25・26	自立支援とリハビリテーション	55・56	健康管理の意義と目的
27・28	自立支援と介護予防	57・58	労働環境の整備
29・30	総括	59・60	総括
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第3・4巻「介護の基本I・II」第2版(中央法規出版)			
参考書：授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う			
視聴覚教材：パワーポイント・DVD			
成績評価方法：筆記試験・出席状況・提出物・学習態度等による総合評価			
学生に望むこと：介護の基本的知識・概念を理解し、介護福祉士として必要な姿勢や態度、視点を身につけてほしい。			
担当教員の資格・経歴等：保育士資格、幼稚園教諭二種免許状、介護福祉士、介護支援専門員			

科目名	音楽	講師名	稗島 律子
授業形態	講義・演習	履修時間数	16時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	現場で音楽を活用するための基礎知識及び音楽の有効性を学ぶ。幅広いジャンルの曲に取り組み、知識を深め、現場で聞き取りやすい声の大きさ、発音、表情を身につける。歌体操、手体操にも取り組み、また、リズム楽器やメロディ楽器、効果音楽器等も実際に使って有効な使い方を学ぶ。		
回数	授業内容		
1・2	音楽の基礎知識について		
3・4	「歌うこと」による有効性と留意点		
5・6	「音楽に合わせて動きを伴うこと」による有効性と留意点		
7・8	「楽器を使うこと」による有効性と留意点、簡易なコードによる伴奏付け		
9・10	「集団で行うこと」の長所・短所と留意点		
11・12	目的に応じて幅広いジャンルから選曲できるように童謡、唱歌、日本世界の抒情歌、歌謡曲、民謡、わらべ歌等多くの曲にふれる ききとりやすい発音で豊かな表情でうたうことを心がける		
13・14	授業で学んだ内容をもとに生徒一人ひとりがテーマを決めて、現場での音楽の使い方を自分なりに工夫して考える（レポート）		
15・16	総括(歌唱) ・歌詞の内容を考えて表情豊かに感情こめて歌えたか ・ききとりやすい声の大きさを丁寧にわかりやすい発音で歌えているか		
使用テキスト：小型キーボードでひける「季節の歌 なつかしい歌」（稗島 律子著）			
参考書：「唱歌」「思い出の愛唱歌」「思い出のうた」「日本民謡集」（野ばら社）、「イチから知りたい楽典の教科書」（西東社）、「日本童謡集」（ドレミ出版）、「昭和の流行歌・歌詞集」（日本音楽教育センター）、「歌の処方箋」（カワイ）、「お年寄りと楽しむ楽譜集 音との出会い」（ドレミ出版社）			
視聴覚教材：			
成績評価方法：出席(8割以上)、実技試験、レポートによる総合評価			
学生に望むこと： ・「音楽」の持つ大きな役割を理解し、現場での音楽の有効性を考える。多くの曲にふれ、現場で歌うことができる。曲のレパートリーを増やす。 ・現場で歌うことを考えて、大きな声でききとりやすい発音で表情豊かにうたう。			
担当教員の資格・経歴等： 小学校教諭・中学校教諭専修免許状（音楽）、高等学校教諭専修免許状（音楽）			

科目名	介護の基本Ⅱ（総合）	講師名	専任教員
授業形態	講義・演習	履修時間数	16時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	今まで学んできた介護福祉士としての基礎知識を確かなものにし、さらに ICT の活用について学ぶことにより、介護職に必要な基本的な能力を高めることを目的とする。		
回数	授 業 内 容		
1・2	介護現場の IT 化 実例 I		
3・4	介護現場の IT 化 実例 II		
5・6	介護現場の IT 化、DX 化における現状と課題		
7・8	介護現場の IT 化、DX 化において求められるスキル		
9・10	介護現場での IT 活用実習		
11・12	模擬試験		
13・14	解答解説会①		
15・16	解答解説会②		
使用テキスト：			
参考書：			
視聴覚教材：			
成績評価方法：テスト、提出物、受講態度、見学態度等による総合評価			
<p>学生に望むこと：知識が定着するように事前学習や事後学習を行う習慣を身に付けてほしい。</p> <p>また、介護福祉士として求められる豊かな感性を身につけるため、積極的な姿勢で施設見学や外部講演視聴に参加してほしい</p>			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士 介護教員			

科目名	介護の基本Ⅱ（総合）	講師名	専任教員
授業形態	講義・演習	授業時間数	16時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科 2学年
授業の目的	介護福祉士としての基礎知識をより確かなものにし、 介護福祉士としての基本的な能力を高めることを目的とする。		
回数	授業内容		
1・2	人間の尊厳と自立・人間関係とコミュニケーション		
3・4	社会の理解		
5・6	コミュニケーション技術・生活支援技術		
7・8	介護の基本・介護過程		
9・10	発達と老化の理解		
11・12	認知症の理解・障害の理解		
13・14	こころとからだのしくみ・医療的ケア		
15・16	総合問題		
使用テキスト：介護福祉士国家試験 模擬問題集（中央法規出版）、各単元の教科書			
参考書：国試ナビ			
視聴覚教材：			
成績評価方法：テスト、提出物、受講態度、見学態度等による総合評価			
学生に望むこと： 国家試験受験に向けた学習として事前学習をして授業に臨み、苦手分野の克服に繋がるよう 復習もしっかりして欲しい。			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士 介護教員			

科目名	アクティビティ法	講師名	渡部 美奈子 専任教員
授業形態	講義・実技	履修時間数	30時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	アクティビティの意義を理解し、心身の健康づくり・生きがいづくりとなるアクティビティのあり方を考える。また、生活の活性化につなげるアクティビティ・サービスの方法を学ぶ。		
回数	授 業 内 容		
1・2	アクティビティ・サービスとは（定義・目的）		
3・4	アクティビティ・サービスの効果 アクティビティサービスの対象		
5・6	生活支援とアクティビティ・サービス		
7・8	生活を豊かにする援助①		
9・10	アクティビティ・サービスの歴史		
11・12	衣・食・住の話題		
13・14	アクティビティ・サービスにおける ICF と支援①		
15・16	アクティビティ・サービスにおける ICF と支援②		
17・18	生活を豊かにする援助②		
19・20	ニーズの調査		
21・22	ニーズを満たすためのアクティビティ計画		
23・24	ニーズを満たすためのアクティビティの発表		
25・26	季節感を取り入れた、アクティビティ・サービスの展開①		
27・28	季節感を取り入れた、アクティビティ・サービスの展開②		
29・30	総括		
使用テキスト：「アクティビティ・サービス」（中央法規出版）			
参考書：資料などはそのつど配布する。			
視聴覚教材：ビデオ・DVD・パワーポイントなど			
成績評価方法：出席（8割以上）、試験（6割以上）、提出物、受講態度などによる総合評価			
学生に望むこと：楽しいと感じる気持ちを大事にする。楽しい空間を作ることについて考える			
担当教員の資格・経歴等：看護師 介護福祉士 介護教員 アクティビティワーカー			

科目名	アクティビティ法	講師名	渡部 美奈子 専任教員
授業形態	講義・実技	履修時間数	30時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科 2学年
授業の目的	人間らしい生活、その人らしく生きることへの心配りを主軸として、生活や心身の活性化の援助となるアクティビティ・サービス（ケア）のあり方を学習する。		
回数	授 業 内 容		
1・2	アクティビティワーカーの資質		
3・4	生活と話題 ① <トピックの抽出 調査 まとめ>		
5・6	生活と話題 ② <発表>		
7・8	体を動かすしくみ 骨格・筋肉・関節		
9・10	日常生活を活かせるアクティビティ ①		
11・12	日常生活を活かせるアクティビティ ②		
13・14	認知症予防アクティビティ		
15・16	アクティビティ・サービス計画の基本的考え方		
17・18	アクティビティ・サービスにおける計画・・・事例検討		
19・20	アクティビティ・サービスにおける計画・・・個別プログラム		
21・22	アクティビティ・サービスにおける計画・・・集団プログラム		
23・24	プログラム演習		
25・26	プログラム演習		
27・28	演習評価		
29・30	総括		
使用テキスト：「アクティビティ・サービス」（中央法規出版）			
参考書：資料などはそのつど配布する。			
視聴覚教材：ビデオ・DVDなど			
成績評価方法：受講態度、出席、提出物6割、試験6割の総合評価			
学生に望むこと：授業や実習に限らず様々なシーンでのアクティビティの活用を望みます。			
担当教員の資格・経歴等：看護師資格 介護福祉士資格 アクティビティワーカー			

科目名	音楽療法	講師名	佐藤 順子
授業形態	講義・演習	履修時間数	1単位
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科 2学年
授業の目的	音楽の療法的意義を学び、音楽演習により「人と音楽」の関係について気づきと学びを得る。さらに適切な音楽の活用方法を習得する。これらにより介護に音楽の活用を推進する支援者を目指す。		
回数	授 業 内 容		
1・2	音楽の効果①（声・歌唱）		
3・4	障害と音楽①（失語症の音楽療法）		
5・6	音楽の効果②（リズム・楽器）		
7・8	障害と音楽②（認知症の音楽療法）		
9・10	音楽支援技術①（音楽の活用法、進め方、関わり方）		
11・12	音楽支援技術②（音楽レクリエーション計画）		
13・14	音楽支援技術③（音楽レクリエーション計画）		
15・16	総括		
使用テキスト：特になし 随時プリントを配布			
参考書：			
視聴覚教材：			
成績評価方法：テスト（60%）、出席率・授業態度・配布資料の整理（40%）			
学生に望むこと：授業に集中し感じ気づきを得ることを重要とします。演習は、積極的に楽しみながら参加してください。毎回、配布資料譜を整理するため糊を持参してください。			
担当教員の資格・経歴等：日本音楽療法学会認定音楽療法士			

科目名	コミュニケーション技術	講師名	石井 康子
授業形態	講義・演習	履修時間数	30時間
授業期間	通年	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	介護を必要とする利用者との援助的関係や援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、及び他職種協働につながる専門的なコミュニケーション技術を身につける。		
回数	授 業 内 容		
1・2	介護におけるコミュニケーションの基本		
3・4	コミュニケーションの基本技術		
5・6	目的別のコミュニケーション技術		
7・8	集団におけるコミュニケーション技術		
9・10	コミュニケーション障害への対応の基本		
11・12	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援		
13・14	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援		
15・16	中間総括		
17・18	家族とのコミュニケーション		
19・20	家族関係と介護ストレスへの対応		
21・22	介護におけるチームのコミュニケーション		
23・24	記録の技術		
25・26	会議・議事進行・説明の技術		
27・28	事例検討に関する技術		
29・30	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座5「コミュニケーション技術」第2版（中央法規出版）			
参考書：資料などはそのつど配布する			
視聴覚教材：ビデオ・DVD・パワーポイントなど			
成績評価方法：筆記試験・出席状況・提出物・ファイル管理・受講態度等による総合評価			
学生に望むこと：コミュニケーションは相互理解を深め、わかり合うものであり、利用者はもとより自己覚知が基本である。学びを通して人間的成長を期待する。人との関わりにおいて、伝える技術の向上を目指す。			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士（現場7年）、介護支援専門員、介護教員（21年）			

科目名	聴覚障害のある人への支援 (手話)	講師名	専任教員
授業形態	演習・講義	履修時間数	16時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科 2学年
授業の目的	聴覚障害の基礎知識、聴覚障害の特性に応じた福祉に関する知識を習得する。また、講義の中で手話の基礎知識を習得する。		
回数	授 業 内 容		
1・2	聴覚障害のある人への支援①		
3・4	聴覚障害者にとってのバリアフリーとは		
5・6	手話の基本 名前 誕生日 年齢 趣味		
7・8	手話の基本 知っておきたい基本的な手話		
9・10	手話を使ってみよう		
11・12	聴覚障害のある方への支援②		
13・14	総復習		
15・16	総括 評価		
使用テキスト：介護福祉士養成講座「コミュニケーション技術」 中央法規出版			
参考書：			
視聴覚教材：必要に応じて使用します（DVDなど）			
成績評価方法：試験、レポート、授業態度、出席総合評価			
学生に望むこと：人への関心と気付きを現場や業務に活かせるようになってほしい			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士			

科目名	視覚障害のある人への支援 (点字)	講師名	松田 洋子
授業形態	講義・実技(墨字訳・点訳)	履修時間数	16時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科 2学年
授業の目的	視覚障害者が情報を入力・伝達する手段としての「文字」である点字についての知識を得て、読む・書くための技術の習得をはかるとともに、視覚障害者の現状に対する理解を深め、実際に接する際に役立てる。		
回数	授 業 内 容		
1・2	点字の構成と基本的表記法の解説 読み方(墨字訳) ー清音・濁音・拗音ー		
3・4	点字器の使い方 ー五十音ー		
5・6	書き方(点訳) ー清音・濁音・拗音ー		
7・8	書き方(点訳) ー特殊音ー		
9・10	書き方(点訳) ー文章の分かち書きー		
11・12	テキスト演習(1)		
13・14	テキスト演習(2)		
15・16	総括		
使用テキスト:「初めての点訳 第3版」(全国視覚障害者情報提供施設協会)			
参考書:			
視聴覚教材:			
成績評価方法:授業各回における提出物の評価と試験における点訳修得度			
学生に望むこと:聞き逃した説明は遠慮なく質問し、一行でも多く書くよう努めてほしい。			
担当教員の資格・経歴等:日本盲人社会福祉施設協議会 点字指導員・石川県点訳友の会会員			

科目名	文化交流	講師名	酢谷 温子 専任教員
授業形態	講義	履修時間数	10時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	自分たちの生活圏の文化を調べたり、伝えたり、触れたりする過程で様々な生活文化や価値観について理解を深め、感性を高める。		
回数	授 業 内 容		
1・2	各国・各地域の伝統や文化について (食事・入浴・参拝 など)		
3・4	不思議な言葉・便利な言葉 (あいさつ・日常生活で使う言葉)		
5・6	四季折々の変化		
7・8	日本の文化「おもてなし」について		
9・10	性質の違うものの組み合わせ		
使用テキスト：			
参考書：資料などはその都度配布する			
視聴覚教材： ビデオ・DVD・パワーポイントなど			
成績評価方法：出席状況・提出物・受講態度等による総合評価			
学生に望むこと：基本的なコミュニケーション技術が身に付くよう積極的に取り組むこと			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士、保育士			

科目名	居住環境の整備	講師名	宮谷 和良
授業形態	講義	履修時間数	16時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科 2学年
授業の目的	住生活を営む上で必要な住まい等についての基礎的な知識を習得し、心身の機能が低下したときに、どのような住環境が求められるかを考察する。		
回数	授 業 内 容		
1・2	暮らしやすい生活環境をめざして		
3・4	健康と自立をめざして		
5・6	バリアフリーとユニバーサルデザイン		
7・8	安全・安心・快適な住まい		
9・10	安心できる住生活とまちづくり		
11・12	地域で取り組む福祉のまちづくり実践事例		
13・14	ケーススタディ（事例検討）		
15・16	総括		
使用テキスト：「福祉住環境コーディネーター検定試験 3級公式テキスト」			
参考書：適宜プリント配布			
視聴覚教材：ビデオ			
成績評価方法：筆記試験、小テスト、受講態度等による総合評価			
学生に望むこと：安全・安心で健康的な自立生活を送るための環境づくりを考える。福祉住環境コーディネーター3級の合格を目指し、多角的な視点から、知識を習得してほしい。			
担当教員の資格・経歴等：社会福祉士、臨床倫理認定士、人間学修士 相談援助職 30年以上			

科目名	家事援助(講義)	講師名	大倉 清美
授業形態	講義	履修時間数	16時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	利用者を主体とした生活の維持及び再構築の視点や具体的手法、地域サービスの活用等、在宅生活を含めた家事支援の重要性と実際及び「暮らし」についての学びを深める。		
回数	授 業 内 容		
1・2	生活支援とは		
3・4	ライフサイクルと生活の豊かさ		
5・6	家事の重要性・介護保険と自立支援		
7・8	自立に向けた家事の介護(調理・洗濯・掃除)		
9・10	自立に向けた家事の介護(裁縫・衛生・買い物・家庭経営・家計の管理)		
11・12	被災地で活動する際の心構え		
13・14	生活支援とチームアプローチ・ICFの視点に基づく生活支援		
15・16	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第6巻「生活支援技術Ⅰ」(中央法規出版)			
参考書：適宜プリント配布			
視聴覚教材：適宜使用・パワーポイント・DVD			
成績評価方法：定期試験及び課題提出、授業態度にて評価 障害者施設勤務10年以上			
学生に望むこと：「暮らし」を支える家事支援の重要性と同じ生活者としての視点から利用者と共に考える専門的介護を学んでほしい。			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士、主任介護支援専門員、認知症ケア専門士			

科目名	家事援助 (衣・講義と演習)	講師名	石井 康子
授業形態	講義・演習	履修時間数	16時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	生活を継続していくための家事の重要性と介護職が担う家事支援の専門性について理解する。衣服の役割と機能に関する知識及び基本的な縫製技術を習得する。		
回数	授 業 内 容		
1・2	縫製介助におけるアセスメントの視点の理解		
3・4	被服の役割と機能・管理方法 加齢・障害に応じた被服の工夫		
5・6	基本的な縫製技術習得 縫製技術を使って小物の作製（製作手順・説明）		
7・8	縫製技術を使って小物の作製（裁断・縫製等）		
9・10	縫製技術を使って小物の作製（裁断・縫製等）		
11・12	縫製技術を使って小物の作製（ボタン・スナップの付け方）		
13・14	縫製技術を使って小物の作製（ボタン・スナップの付け方）・作品発表		
15・16	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第6巻「生活支援技術Ⅰ」（中央法規出版）			
参考書：教材プリント使用			
視聴覚教材：パワーポイント等			
成績評価方法：提出物・作品・学習態度・出席状況・筆記試験等による総合評価			
学生に望むこと：家事支援、裁縫の必要な支援をICFに沿って考えることが出来、具体的な支援が可能となるよう基本的な裁縫技術を身につけてほしい。			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士（現場7年）、介護支援専門員、介護教員（21年）			

科目名	家事援助 (食・講義と演習)	講師名	南 友美
授業形態	講義・演習	履修時間数	30時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	生活支援技術の重要なひとつとしての食事に関する家事援助を習得する。 「食」の意義と役割を理解し、食品衛生に留意して基本の調理を学び、個々人の状況に合わせた家事援助に対応できる技術を得る。演習では、健康寿命延伸のためのバランスのよい食事から、嚥下食など展開食を実施する。		
回数	授 業 内 容		
1・2	栄養の理解：栄養素 概論 人体の構造と栄養素		
3・4	栄養の理解：栄養素 各論 五大栄養素について		
5・6	食品の衛生：食中毒予防 安全な食品購入と選択、保存方法		
7・8	調理の基本：道具の取り扱い・食費の取り扱い		
9・10	演習（調理実習）① 野菜の切り方・色々な調理法		
11・12	調理の基本：献立の立て方		
13・14	演習（調理実習）②「ケの料理」一汁三菜のバランスの良い食事		
15・16	高齢者の身体機能と栄養 障害のある人への配慮		
17・18	演習（調理実習）③ 高齢者への配慮		
19・20	演習（調理実習）④ 介護食・展開食・嚥下食		
21・22	楽しい演出：食事の演出や主な行事食		
23・24	演習（調理実習）⑤ 行事食への配慮		
25・26	演習（調理実習）⑥「ハレの料理」加賀野菜を使って美味しい介護職		
27・28	疾患と食事 生活習慣病予防		
29・30	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第6巻・11巻「生活支援技術Ⅰ」第2版（中央法規出版）			
参考書：食品成分表			
視聴覚教材：パワーポイント			
成績評価方法：出席状況・学習態度・演習・筆記試験などの総合評価			
学生に望むこと：介護支援における「食事」の役割を理解すること。生きる基本である食事を栄養素の基本を知ることから、適切な調理、適切な食事介助等習得し、介護現場において多職種と協働して支援できる介護福祉士を目指すこと。			
担当教員の資格・経歴等：管理栄養士、調理師免許			

科目名	生活支援技術(演習)	講師名	専任教員
授業形態	演習	履修時間数	60時間
授業期間	通年	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	対象者の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し見守ることを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得する。		
回数	授業内容		
1・2	生活支援とは	31・32	前期の振り返り
3・4	ベッドメイキング	33・34	バイタルチェック
5・6	ボディメカニクス・基本動作	35・36	事例演習①
7・8	自立に向けた介護(体位変換)①	37・38	事例演習②
9・10	自立に向けた介護(体位変換)②	39・40	事例演習③
11・12	自立に向けた食事の介護	41・42	振り返りⅠ
13・14	自立に向けた清潔保持の介護	43・44	振り返りⅡ
15・16	自立に向けた排泄の介護(おむつ)①	45・46	振り返りⅢ
17・18	自立に向けた排泄の介護(立位)②	47・48	まとめ
19・20	事例演習①	49・50	まとめ
21・22	事例演習②	51・52	まとめ
23・24	事例演習③	53・54	実技試験
25・26	振り返り①	55・56	自立に向けた清潔(シーツ交換)の介護
27・28	振り返り②	57・58	自立に向けた清潔(洗濯)の介護
29・30	実技試験	59・60	環境整備の視点
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第7巻「生活支援技術Ⅱ」(中央法規出版)			
参考書：授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う			
視聴覚教材：パワーポイント・DVD			
成績評価方法：筆記試験・実技試験・出席状況・提出物・演習態度等による総合評価			
学生に望むこと：自立に向けた基本的な介護技術が身につくよう主体的かつ積極的に取り組むことを期待する。また技術の根底には介護者としての人間性が反映されるので、人間としての成長も心がけてほしい。			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士 看護師			

科目名	生活支援技術(演習)	講師名	専任教員
授業形態	演習	履修時間数	60時間
授業期間	通年	対象学科学年	介護福祉学科 2学年
授業の目的	対象者の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得する。		
回数	授 業 内 容		
1・2	体位変換・移乗の技法	31・32	洗髪・整髪・洗面介助
3・4	介護を考えよう①(高齢者体験)	33・34	移乗の技法(車)
5・6	自立に向けた排泄の介護(ポータブル・おむつ)	35・36	持ち上げない介護(講義)
7・8	バイタルサイン(復習)	37・38	持ち上げない介護(実技)
9・10	事例演習①	39・40	事例演習①
11・12	事例演習②	41・42	事例演習②
13・14	事例演習③	43・44	事例演習③
15・16	事例演習④	45・46	事例演習④
17・18	事例演習⑤	47・48	事例演習⑤
19・20	振り返り①	49・50	事例演習⑥
21・22	振り返り②	51・52	振り返り①
23・24	振り返り③	53・54	振り返り②
25・26	実技試験	55・56	振り返り③
27・28	ターミナルケア	57・58	実技試験
29・30	褥瘡	59・60	介護を考えよう②(事例)
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第7巻「生活支援技術Ⅱ」(中央法規出版)、 「持ち上げない移動・移乗技術」(中央法規出版)			
参考書：授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う			
視聴覚教材：パワーポイント・ビデオ・DVD			
成績評価方法：筆記試験・実技試験・出席状況・提出物・演習態度等による総合評価			
学生に望むこと：自立に向けた基本的な介護技術が応用できるようになり、将来介護福祉士として個々の対象者に最適なサービスを提供できる能力を習得してほしい。			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士 看護師			

科目名	形態別生活支援技術 (講義)	講師名	専任教員
授業形態	講義	履修時間数	30時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	各障害の特性の理解を深めたうえで、障害者の潜在能力を引き出し、障害に合わせた適切な生活支援や安全に援助できる知識を学び実践の礎を築く。		
回数	授 業 内 容		
1・2	運動機能障害に応じた介護		
3・4	高次脳機能障害に応じた介護		
5・6	内部障害に応じた介護①		
7・8	内部障害に応じた介護②		
9・10	内部障害に応じた介護③		
11・12	内部障害に応じた介護④		
13・14	重症心身障害に応じた介護		
15・16	まとめ		
17・18	視覚障害に応じた介護		
19・20	聴覚・言語障害に応じた介護		
21・22	重複障害に応じた介護		
23・24	知的障害に応じた介護		
25・26	精神障害に応じた介護		
27・28	発達障害に応じた介護		
29・30	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第8巻「生活支援技術Ⅲ」（中央法規出版）			
参考書：授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う			
視聴覚教材：パワーポイント・DVD			
成績評価方法：提出物・学習態度・出席状況・筆記試験等による総合評価			
学生に望むこと：障害の概念と障害者の実態ならびに障害が及ぼす影響について理解し、障害に応じた介護方法を習得してほしい。			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士			

科目名	形態別生活支援技術 (演習)	講師名	専任教員
授業形態	演習	履修時間数	30時間
授業期間	通年	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	障害者の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し見守ることを含めた障害に合わせた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる実践的な技術や知識を習得する。		
回数	授 業 内 容		
1・2	運動機能障害に応じた介護（着脱）①		
3・4	運動機能障害に応じた介護（着脱）②		
5・6	運動機能障害に応じた介護（車いす移動）		
7・8	運動機能障害に応じた介護（杖移動）		
9・10	形態に応じた介護（移乗）		
11・12	障害者スポーツ大会参加（レポート課題）		
13・14	運動機能障害に応じた介護（入浴）		
15・16	前期総括		
17・18	リハビリ施設等見学（レポート課題）		
19・20	運動機能障害に応じた介護（ゆかたの着脱）		
21・22	運動機能障害に応じた介護（車いす移乗）①		
23・24	運動機能障害に応じた介護（車いす移乗）②		
25・26	運動機能障害に応じた介護・器具の理解（排泄）		
27・28	運動機能障害に応じた介護（部分浴）		
29・30	後期総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第8巻「生活支援技術Ⅲ」（中央法規出版）			
参考書：授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う			
視聴覚教材：パワーポイント・ビデオ・DVD			
成績評価方法：筆記試験・出席状況・提出物・演習態度等による総合評価			
学生に望むこと：障害の概念と障害者の実態ならびに障害が及ぼす影響について理解し、障害に応じた介護方法を身につけてほしい。			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士			

科目名	緊急時の対応	講師名	日本赤十字社石川県支部
授業形態	講義・講演	単位数	30時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科 2学年
授業の目的	病気やけがや災害から自分自身を守り、けが人や急病人を正しく救助し、医師または救急隊などに引継ぐまでの一次救命処置と応急手当を学び、赤十字救急法救急員（ファーストエイドプロバイダー）の資格を取得する。		
回数	授業内容		
1・2	赤十字救急法について（学科）	手当の基本（学科・実技）	
3・4	一次救命処置（学科・実技）		
5・6	全体実技・学科総括		
7・8	赤十字救急法救急員（ファーストエイドプロバイダー）について・急病（学科）		
9・10	けが・止血・きずの手当（学科）		
11・12	止血・きずの手当（実技）		
13・14	きずの手当（実技）		
15・16	きずの手当（実技）		
17・18	骨折の手当（学科・実技）		
19・20	骨折の手当（実技）		
21・22	搬送（学科・実技）		
23・24	救護（学科・実技）		
25・26	総合学習		
27・28	学科総括		
29・30	実技総括		
使用テキスト：「赤十字救急法基礎講習」・「赤十字救急法講習」			
参考書：「改訂6版 救急蘇生法の指針2020（市民用）」へるす出版			
視聴覚教材：なし			
成績評価方法：学科・実技総括、出席状況、学習態度等による総合評価			
学生に望むこと：この科目を学習した生徒が、自分自身の事故防止とともに、地域や職場で病気やけがをした人に対して適切に手当を実施できるようになること。			
担当教員の資格・経歴等：赤十字救急法指導員			

科目名	介護過程Ⅰ	講師名	専任教員
授業形態	講義・演習	履修時間数	30時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる基礎的能力を養う。		
回数	授 業 内 容		
1・2	介護過程の意義・目的		
3・4	アセスメントとは（関わりの基本）		
5・6	生活支援における介護過程の必要性		
7・8	介護過程の理解		
9・10	介護過程の展開		
11・12	アセスメントとは（ICFの視点にそつての情報の収集と分析）		
13・14	アセスメントとは（情報の分析と課題の明確化）		
15・16	介護過程の理解（アセスメント）		
17・18	介護過程の理解（アセスメント）		
19・20	介護過程の理解（介護計画の立案）		
21・22	介護過程の理解（介護の実施）		
23・24	介護過程の理解（評価）		
25・26	介護過程の実践的展開		
27・28	学習内容の振り返り		
29・30	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座9「介護過程」第2版（中央法規出版）			
参考書：資料等は適宜配布			
視聴覚教材：DVD・パワーポイントなど			
成績評価方法：筆記試験・出席状況・ファイル管理・提出物・受講態度等による総合評価			
学生に望むこと：「利用者の尊厳を守るケア」「個別ケア」を行うにあたり、専門的知識・技術を根拠とした客観的、科学的思考過程による介護過程の展開能力を身につけてこそ、さらにケアの質が高まり、利用者主体の生活支援につながるということを理解してほしい。			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士			

科目名	介護過程Ⅱ（演習）	講師名	専任教員
授業形態	講義・演習	履修時間数	60時間
授業期間	通年	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	他科目で学習した知識や技術を統合し介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる実践的能力を養う。事例を通し生活の意味、人生の尊さ、介護福祉士としての仕事の魅力を理解する。		
回数	授 業 内 容		
1・2	ケアマネジメントの全体像	31・32	アセスメントの実際 [事例演習]
3・4	ケアプランと個別援助計画の関係性	33・34	アセスメントの実際 [事例演習]
5・6	チームアプローチの意義	35・36	アセスメントの実際 [事例演習]
7・8	チームアプローチの実際	37・38	介護計画立案の実際 [事例演習]
9・10	介護過程の実践的展開	39・40	介護計画立案の実際 [事例演習]
11・12	介護過程の展開に向けての記録演習 (文章力・漢字力の養成)	41・42	介護計画立案の実際 [事例演習]
13・14	介護過程の展開に向けての記録演習 (文章力・漢字力の養成)	43・44	介護計画立案の実際 [事例演習]
15・16	情報ツールの記入の実際[事例演習]	45・46	介護福祉士の仕事の魅力
17・18	情報ツールの記入の実際[事例演習]	47・48	生活のなかで感じる地域性
19・20	情報ツールの記入の実際[事例演習]	49・50	介護過程の展開に向けての記録演習 (文章力・漢字力の養成)
21・22	情報ツールの記入の実際[事例演習]	51・52	介護計画展開の実際 [第2段階実習事例演習]
23・24	アセスメントの実際 [事例演習]	53・54	介護計画展開の実際 [第2段階実習事例演習]
25・26	アセスメントの実際 [事例演習]	55・56	介護計画展開の実際 [第2段階実習事例演習]
27・28	アセスメントの実際 [事例演習]	57・58	介護計画展開の実際 [第2段階実習事例演習]
29・30	総括	59・60	総括
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第9巻「介護過程」（中央法規出版）			
参考書：資料などはその都度配布する			
視聴覚教材：ビデオ・DVD・パワーポイントなど			
成績評価方法：筆記試験・出席状況・ファイル管理・提出物・受講態度等による総合評価			
学生に望むこと：			
1. 利用者を主体とした介護過程を展開するための実践的な知識と技術を身につけることを期待する。			
2. 上記を達成するために、演習等においては積極的かつ自主的に取り組み、実践的な態度を養うこと。			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士 介護教員			

科目名	介護過程Ⅲ（課題研究）	講師名	渡部 美奈子
授業形態	講義・演習	履修時間数	30時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	介護過程に沿って体験した介護方法を研究論文にまとめる過程を学ぶとともに、研究発表の手法を学ぶ。学内外で研究等の発表を聴き、また大勢の前で自らの意見を発表する機会を持つことで介護福祉士としての視点や応用能力を養う。		
回数	授 業 内 容		
1・2	2年生ケアスタディの振り返り グループワーク（1・2年生合同）		
3・4	事例検討 グループワーク（1・2年生合同）		
5・6	研究の種類と内容		
7・8	求められる介護者の姿について（検討と発表）		
9・10	事例研究と課題研究		
11・12	正しい文章の作成		
13・14	「私の介護観」の作成に向けてのアイデアの抽出		
15・16	「私の介護観」アイデア発表		
17・18	論文のまとめ方と書き方 「私の介護観」小論文作成		
19・20	日頃の気づきから研究テーマへ ～アイデアを形にする方法～		
21・22	グループワーク ～アイデアを形に～		
23・24	グループワーク ～形を文章へ～		
25・26	グループワーク ～アイデアの発表～		
27・28	ケアスタディの内容と書き方		
29・30	総括		
使用テキスト：「よくわかる介護福祉研究入門」（保育社）			
参考書：「介護事例研究の手引」第3版（日総研出版）、プリント適宜			
視聴覚教材：ビデオ・パワーポイント・DVDなど			
成績評価方法：筆記試験、提出物、ファイル管理、演習態度等総合的に評価する			
学生に望むこと：他者の意見に耳を傾けながら自己の思考過程や文章作成能力をみがき、発表へとつなげてほしい。			
担当教員の資格・経歴等：看護師、病院勤務10年以上、教員10年以上			

科目名	介護過程Ⅲ（課題研究）	講師名	渡部 美奈子
授業形態	講義・演習	履修時間数	30時間
授業期間	通年	対象学科学年	介護福祉学科 2学年
授業の目的	介護過程に沿って体験した介護方法を研究論文にまとめる過程を学ぶとともに、研究発表の手法を学ぶ。また、学内外の大勢の聴衆の前で発表し、発表を聴く機会を持つことで介護福祉士としての視点や応用能力を養う。		
回数	授 業 内 容		
1・2	仮説を立てる 仮説の検証について	1・2	ケアスタディ作成（本文）
3・4	データ収集・データ分析①	3・4	ケアスタディ提出・個別指導
5・6	データ分析②・資料作成・原稿作成	5・6	質問事項の確認・読み原稿作成
7・8	発表	7・8	プレゼンテーションの技法・読み練習
9・10	個別援助について ケアスタディの内容と書き方 ケアスタディ作成の心得・入力説明	9・10	ケアスタディ発表会 リハーサル
11・12	ケアスタディ作成開始 （「タイトル」「はじめに」）	11・12	ケアスタディ発表会
13・14	前期学習内容の振り返り	13・14	ケアスタディの振り返り グループワーク （1・2年生合同）
		15・16	事例検討 グループワーク （1・2年生合同）
使用テキスト：「よくわかる介護福祉研究入門」（保育社）			
参考書：「介護事例研究の手引」第3版（日総研出版）、プリント適宜			
視聴覚教材：ビデオ・パワーポイント・DVDなど			
成績評価方法：筆記試験、提出物、ファイル管理、演習態度等総合的に評価する			
学生に望むこと：授業の目的に照らし必要な知識や技術を修得するために積極的かつ主体的に取り組むことを期待する。授業での過程を通して常に自己評価し、他者の意見に耳を傾けながら自己の思考過程や文章作成能力をみがいて、発表へとつなげてほしい。			
担当教員の資格・経歴等：看護師 病院勤務 10年以上 教員 10年以上			

科目名	介護総合演習 I	講師名	専任教員
授業形態	演習	履修時間数	60時間
授業期間	通年	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	介護実習に向けて、心構えを確認し、予備知識を蓄え、実習に対する動機づけを深め、介護実習に臨む準備を行う。実習後は十分な振り返りを行うことで、介護実習で学んだ内容の深化をはかる。		
回数	授業内容		
1・2	介護実習の意義と目的	31・32	「第1段階実習のまとめ」清書
3・4	施設種別の理解①	33・34	学内振り返り会準備
5・6	施設種別の理解② 事前学習ノート作成説明	35・36	第1段階実習学内振り返り会
7・8	実習記録（説明） 実習記録について（目標の立て方）	37・38	第2段階実習について
9・10	実習記録について（記録演習）	39・40	実習記録について（復習）
11・12	施設実習要綱説明・第1段階実習について	41・42	実習記録について（説明）
13・14	第1段階実習施設別書類作成	43・44	第2段階実習施設別書類作成
15・16	情報交換会準備 訪問介護実習について①	45・46	後期末筆記試験
17・18	2年生との情報交換会	47・48	第2段階実習事前面接
19・20	前期末筆記試験	49・50	第2段階実習事前オリエンテーション
21・22	第1段階実習事前面接(ガイダンス)	51・52	第2段階実習振り返り・事後指導
23・24	第1段階実習事前面接	53・54	「第2段階実習のまとめ」清書
25・26	第1段階実習記録用紙配布等	55・56	学内振り返り会準備
27・28	第1段階実習事前オリエンテーション	57・58	第2段階実習学内振り返り会
29・30	第1段階実習振り返り・事後指導	59・60	訪問介護実習について②
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第10巻「介護総合演習・実習」（中央法規出版）			
参考書：適宜、授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う			
視聴覚教材：パワーポイント・ビデオ・DVD			
成績評価方法：筆記試験・出席状況・提出物・学習態度等による総合評価			
学生に望むこと：対人業務として必要な基本的態度や社会的常識を体得し、これまで学習してきた全ての科目の知識や技術を実践に活かせるように、授業や情報収集に積極的に取り組むことで充実した学習や実習になることを期待する。			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士 看護師			

科目名	介護総合演習Ⅱ	講師名	専任教員
授業形態	演習	履修時間数	60時間
授業期間	通年	対象学科学年	介護福祉学科 2学年
授業の目的	第3段階実習にむけて、心構え・予備知識・動機づけの機会とし介護実践能力を身につけられるような実習とする。実習後は十分な振り返りを行い、介護実習で学んだ内容の深化や今後の介護観・職業観に繋げられる学習とする。		
回数	授 業 内 容		
1・2	第3段階実習の目標と内容	31・32	帰校日
3・4	コミュニケーションについて(振り返り)	33・34	第3段階実習振り返り・事後指導
5・6	介護過程について(振り返り)	35・36	「第3段階実習のまとめ」清書
7・8	第3段階実習記録物の様式の理解	37・38	学内振返会準備
9・10	第3段階実習施設別書類作成	39・40	第3段階実習学内振返会
11・12	個人表・概要表作成	41・42	第3段階実習を終えて(振り返り)
13・14	情報交換会の準備	43・44	第3段階実習を終えて(発表)
15・16	1年生との情報交換会	45・46	DVDによる学習
17・18	第3段階実習事前面接	47・48	資格取得時の到達目標について
19・20	第3段階実習記録用紙配布等	49・50	介護とは何かを考える
21・22	第3段階実習事前オリエンテーション	51・52	福祉について
23・24	前期末総括	53・54	地域と福祉
25・26	施設見学①	55・56	施設種別について(学習)
27・28	施設見学②	57・58	施設種別について(発表)
29・30	施設見学振り返り	59・60	後期末総括
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第10巻「介護総合演習・実習」(中央法規出版)			
参考書：適宜、授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う			
視聴覚教材：パワーポイント・ビデオ・DVD			
成績評価方法：筆記試験・出席状況・提出物・学習態度等による総合評価			
学生に望むこと：対人援助職として必要な基本的態度や社会的常識を体得し、これまで学習してきた全ての科目の知識や技術を実践に活かせるように、授業や情報収集に積極的に取り組むことで充実した学習や実習になることを期待する。			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士 看護師			

科目名	発達と老化の理解 I (人間の成長と発達)	講師名	酢谷 温子
授業形態	講義	履修時間数	16時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	人間の成長と発達の過程、各発達段階におけるライフサイクルの特徴を理解し、各発達段階における身体的・心理的・社会的変化が生活に及ぼす影響を理解する。そして、各発達段階におけるライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的知識を習得する。		
回数	授 業 内 容		
1・2	成長・発達の考え方		
3・4	遺伝と環境		
5・6	発達理論		
7・8	各発達段階での社会性の発達 (胎児期～幼児期)		
9・10	各発達段階での社会性の発達 (学童期～成人期)		
11・12	愛着の発達 道徳・向社会的行動		
13・14	発達に関するまとめ		
15・16	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第12巻「発達と老化の理解」（中央法規出版）			
参考書：適宜、授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う			
視聴覚教材：パワーポイント、プリント配布			
成績評価方法：筆記試験・出席状況・提出物・受講態度等による総合評価			
学生に望むこと：授業中のディスカッションに積極的に参加すること。 ノート・プリントは整理して見やすくしておくこと。			
担当教員の資格・経歴等：保育士：国家資格(厚生労働省) 保育園 30年勤務 生涯学習インストラクター：交流分析士：メンタル心理カウンセラー・家族療法カウンセラー 親業インストラクター資格養成講座修了			

科目名	発達と老化の理解Ⅲ (高齢者と健康)	講師名	渡部 美奈子
授業形態	講義	履修時間数	30時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科 2学年
授業の目的	老年期における心理的・身体的・社会的変化が生活に及ぼす影響を理解し、老年期の特徴に応じた生活を支援するために必要な医学的知識を習得する。		
回数	授 業 内 容		
1・2	健康長寿にむけての健康 高齢者に多い症状の特徴		
3・4	高齢者に多い疾患と日常生活の留意点 (骨・筋肉・関節)		
5・6	高齢者に多い疾患と日常生活の留意点 (脳・神経系)		
7・8	高齢者に多い疾患と日常生活の留意点 (皮膚・感覚器系)		
9・10	高齢者に多い疾患と日常生活の留意点 (循環器系・呼吸器)		
11・12	小テスト①		
13・14	高齢者に多い疾患と日常生活の留意点 (消化器系・腎・泌尿器系)		
15・16	高齢者に多い疾患と日常生活の留意点 (生殖器系 内分泌・代謝系 免疫系)		
17・18	高齢者に多い疾患と日常生活の留意点 (歯・口腔疾患・悪性新生物))		
19・20	小テスト②		
21・22	高齢者に多い疾患と日常生活の留意点 (感染症)		
23・24	高齢者に多い疾患と日常生活の留意点 (精神疾患)		
25・26	高齢者に多い疾患と日常生活の留意点 (その他)		
27・28	小テスト③		
29・30	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第12巻 「発達と老化の理解」 (中央法規出版)			
参考書：適宜、授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う			
視聴覚教材：パワーポイント			
成績評価方法：筆記試験・出席状況・提出物・受講態度等による総合評価			
学生に望むこと：多側面に渡る身体的老化現象を理解し、日常生活にどのように影響するのかわかりやすく理解して欲しい。ノート・プリントは整理して見やすくしておくこと。			
担当教員の資格・経歴等：看護師、病院勤務 10年以上、教員 10年以上			

科目名	認知症の理解 I (認知症の基礎的理解)	講師名	専任教員
授業形態	講義	履修時間数	16時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	認知機能の変化が本人の生活にどのような影響を及ぼすのか、行動と環境との関係を理解し、「生活」とは何かを考え、環境を活かした介護を提供する上での課題を理解する		
回数	授業内容		
1・2	認知症を取り巻く状況 認知症ケアの理念と視点		
3・4	認知症の当事者の視点からみえるもの		
5・6	パーソン・センタード・ケア		
7・8	認知症の人の心理的ニーズの理解		
9・10	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール		
11・12	認知症の人とのコミュニケーション 認知症の人へのケア		
13・14	認知症の人へのさまざまなアプローチ 認知症の人への環境づくり		
15・16	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座13「認知症の理解」第2版（中央法規出版）			
参考書：適宜プリント資料等配布、参考文献の紹介			
視聴覚教材：パワーポイント、DVD			
成績評価方法：筆記試験・出席状況・提出物・受講態度等による総合評価			
学生に望むこと：認知症の人が特別な人ではないということを理解し、人が生きることを支える際の介護職の役割を理解し、あきらめないかわりを追求してほしい。			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士			

科目名	認知症の理解Ⅱ (医学的知識)	講師名	渡部 美奈子
授業形態	講義	単位数	30時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	認知症を理解するにあたり、加齢による身体の変化、脳の仕組み、認知症の種類による症状やそれらのケアについて学ぶ。		
回数	授 業 内 容		
1・2	認知症とは何か・老化とはどのようなことか		
3・4	脳のしくみ① 脳の構造・機能		
5・6	脳のしくみ② 認知症の病理、症状との関係		
7・8	認知症の人の心理 小テスト①		
9・10	中核症状の理解		
11・12	生活障害の理解		
13・14	小テスト②		
15・16	BPSD の理解① BPSD の定義、要因（背景因子）、誘因		
17・18	BPSD の理解② 主要な BPSD		
19・20	小テスト③		
21・22	認知症の診断と重症度		
23・24	認知症の原因疾患と症状・生活障害		
25・26	認知症の治療薬・認知症の予防		
27・28	小テスト④		
29・30	試験		
使用テキスト：最新 介護福祉士養成講座 第13巻「認知症の理解」（中央法規出版）			
参考書：適宜、授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う			
視聴覚教材：パワーポイント			
成績評価方法：試験、提出物（提出状況）、授業態度			
学生に望むこと：社会資源、教材、メディア等を活用し、知識とその根拠を習得する			
担当教員の資格・経験等：看護師 病院勤務 10年以上 教員経験 10年以上			



科目名	認知症の理解Ⅲ (地域における支援)	講師名	大倉 清美
授業形態	講義	履修時間数	16時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科 2学年
授業の目的	認知症のある人が地域で暮らすために必要な資源を学び、地域のサポート体制について理解する。実際の現場でのケアを支える制度と具体的な他職種協働等について学び、認知症のある人を支える意義を理解する。		
回数	授 業 内 容		
1・2	認知症の人の家族を支える視点		
3・4	認知症の人の家族への支援とレスパイトケア		
5・6	介護福祉職への支援(職場環境の整備)		
7・8	認知症ケアを実践するために		
9・10	制度理解(新オレンジプランへ)		
11・12	若年性認知症の人 認知症当事者による支援		
13・14	多職種連携と協働		
15・16	統括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第13巻「認知症の理解」(中央法規出版)			
参考書：授業中にプリント配布、資料等			
視聴覚教材：パワーポイント・DVD			
成績評価方法：筆記試験・出席状況・提出物・受講態度等による総合評価			
学生に望むこと：認知症のある人が住み慣れた地域で暮らし続けていくための支援方法について深く理解し、その視点を持ち続けることを望む。			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士、主任介護支援専門員、認知症ケア専門士			

科目名	障害の理解 I (障害の基礎的理解)	講師名	吉豊 麻矢
授業形態	講義	履修時間数	16時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	障害基本理念、障害者福祉に関する歴史から、現在の福祉制度が整ってきた流れを知る。		
回数	授業内容		
1・2	障害の概念		
3・4	障害者福祉の基本理念		
5・6	障害者福祉に関連する制度①		
7・8	障害者福祉に関連する制度②		
9・10	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援（知的障害）		
11・12	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援（精神障害）		
13・14	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援（発達障害）		
15・16	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第14巻「障害の理解」第2版（中央法規出版）			
参考書：適宜プリント配布			
視聴覚教材：パワーポイント			
成績評価方法：筆記試験・出席状況・受講態度による総合評価			
学生に望むこと：障害のある人が、現在どのような制度を使って、自立に向けて生きているのか、私たち介護者が制度や法を知ること、どのような働きができるのか知ってほしい。			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士、障害者支援20年以上勤務			

科目名	障害の理解Ⅱ (医学的知識)	講師名	吉豊麻矢 渡部美奈子
授業形態	講義	履修時間数	30時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	障害のある人の心理や身体機能に関する医学的知識を身につけるとともに、障害のある人の体験を理解する。		
回数	授 業 内 容		
1・2	障害のある人の心理		
3・4	肢体不自由（運動機能障害）の基礎的理解と特性に応じた支援		
5・6	視覚障害の基礎的理解と特性に応じた支援		
7・8	聴覚・言語障害の基礎的理解と特性に応じた支援		
9・10	重複障害の基礎的理解と特性に応じた支援		
11・12	重症心身障害の基礎的理解と特性に応じた支援		
13・14	総括①		
15・16	心臓機能障害・呼吸機能障害のある人の生活の理解		
17・18	腎機能障害のある人の生活の理解		
19・20	膀胱・直腸障害・小腸機能障害のある人の生活の理解		
21・22	肝臓機能障害のある人の生活の理解		
23・24	高次脳機能障害の基礎的理解と特性に応じた支援		
25・26	難病の基礎的理解と特性に応じた支援		
27・28	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害のある人の生活の理解		
29・30	総括②		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第14巻「障害の理解」（中央法規出版）			
参考書：適宜プリント配布			
視聴覚教材：パワーポイント			
成績評価方法：筆記試験・出席状況・受講態度等による総合評価			
学生に望むこと：わからないことは積極的に知ろうとする姿勢。			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士、障害者支援施設勤務20年以上 看護師、病院勤務10年以上、介護教員10年以上			

科目名	障害の理解Ⅲ (地域における支援)	講師名	吉豊 麻矢
授業形態	講義	履修時間数	16時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科 2学年
授業の目的	地域の中で、共に生活する障がいのある方、及びその家族を支援するための基礎的知識を学習する。		
回数	授 業 内 容		
1・2	地域のサポート体制		
3・4	多機関との連携		
5・6	チームアプローチ		
7・8	前半まとめ		
9・10	家族への支援		
11・12	家族の介護力の評価と介護負担の軽減		
13・14	当事者とのディスカッション (未定)		
15・16	総括		
使用テキスト： 最新・介護福祉士養成講座第14巻「障害の理解」（中央法規出版）			
参考書： 適宜プリント配布			
視聴覚教材： パワーポイント			
成績評価方法： 出席状況、筆記試験、受講態度等による総合評価			
学生に望むこと： 障がいのある人とその家族を取り巻く問題を知り、課題解決に向け、どのような地域福祉を利用していったらいいのかを、一緒に考えてほしい。			
担当教員の資格・経歴等： 介護福祉士、障害者支援20年以上勤務			

科目名	こころのしくみ	講師名	渡部 美奈子
授業形態	講義	履修時間数	30時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科 2学年
授業の目的	基礎的なこころのしくみについて学び理解する。生活体である自分、援助者である自分を見つめ、対人援助職としてあるべき自分の構え方を考える。		
回数	授 業 内 容		
1・2	健康の定義・健康観		
3・4	心と脳のしくみ		
5・6	意識と無意識		
7・8	人間の欲求とは		
9・10	自己実現と尊厳		
11・12	知覚・理解・認識		
13・14	学習・記憶のしくみ		
15・16	感情・情動のしくみ		
17・18	意欲・動機づけのしくみ		
19・20	適応のしくみ		
21・22	気分と身体		
23・24	パーソナリティ		
25・26	価値観		
27・28	みる きく 感じる		
29・30	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第11巻「こころとからだのしくみ」（中央法規出版）			
参考書：授業中にプリント配布、参考文献の紹介をおこなう			
視聴覚教材：ビデオ・DVD			
成績評価方法：レポート・科目試験の結果を総合して評価する。			
学生に望むこと：こころのしくみを理解し、生活援助者としての在り方を思索する			
担当教員の資格・経歴等：看護師資格、病院勤務10年以上、教員10年以上			

科目名	からだのしくみ (生命論)	講師名	渡部 美奈子
授業形態	講義	履修時間数	30時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	身体の生理・身体の機能・身体構造・身体の動きについて理解し、介護サービスの提供における安全への留意点や身体的・心理的側面への配慮について学習する。		
回数	授 業 内 容		
1・2	生命について		
3・4	からだのしくみの理解① 人体の構造と機能（内臓）		
5・6	からだのしくみの理解② 人体の構造と機能（骨格・骨格筋）		
7・8	からだのしくみの理解③ 細胞・遺伝		
9・10	からだのしくみの理解④ 脳・神経（中枢神経・末梢神経）		
11・12	小テスト①		
13・14	からだのしくみの理解⑥ 感覚器		
15・16	からだのしくみの理解⑦ 呼吸器・循環器・リンパ系		
17・18	からだのしくみの理解⑧消化器		
19・20	からだのしくみの理解⑨骨格筋		
21・22	小テスト②		
23・24	からだのしくみの理解⑩生殖器・内分泌		
25・26	からだのしくみの理解⑪ホメオスタシス		
27・28	小テスト		
29・30	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第11巻「こころとからだのしくみ」（中央法規出版）			
参考書：適宜、授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う			
視聴覚教材：パワーポイント・ビデオ・DVD			
成績評価方法：提出物・学習態度・出席状況等による総合評価			
学生に望むこと：身体の生理・機能・構造・動きについて基本的知識を身につける。			
担当教員の資格・経歴等：看護師 病院勤務10年以上 教員経験10年以上			

科目名	からだのしくみ (生活論)	講師名	専任教員
授業形態	講義	履修時間数	40時間
授業期間	通年	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	生活支援技術で求められる知識や援助の意義を深め、それらのサービスの提供における安全への配慮や身体的・心理的側面への配慮について理解する。		
回数	授 業 内 容		
1・2	移動に関連したところとからだの基礎知識とそのしくみ	21・22	体位変換とその生理
3・4	心身の機能低下が移動に及ぼす影響・変化の気づきと対応	23・24	褥瘡
5・6	身じたくに関連したところとからだの基礎知識とそのしくみ	25・26	バイタルサインの理解①
7・8	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響・変化の気づきと対応	27・28	バイタルサインの理解②
9・10	小テスト①	29・30	小テスト①
11・12	食事に関連したところとからだの基礎知識とそのしくみ	31・32	心身の機能低下が食事に及ぼす影響・変化の気づきと対応
13・14	入浴・清潔保持に関連したところとからだの基礎知識とそのしくみ	33・34	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響・変化の気づきと対応
15・16	排泄に関連したところとからだの基礎知識とそのしくみ	35・36	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響・変化の気づきと対応
17・18	小テスト②	37・38	小テスト②
19・20	総括	39・40	総括
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第11巻「ところとからだのしくみ」第2版（中央法規出版）			
参考書：授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う			
視聴覚教材：パワーポイント・ビデオ・DVD			
成績評価方法：筆記試験・出席状況・提出物・学習態度等による総合評価			
学生に望むこと：生活支援技術や実習・就職後に求められる援助の意義を確認し、ところとからだのしくみの基礎的知識を身に付けてほしい。難しい单元なので資料をきちんと保管し予習・復習をしっかりとって欲しい。			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士 看護師			

科目名	からだのしくみ (生活論)	講師名	宮谷 和良
授業形態	講義	履修時間数	20時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科 1学年
授業の目的	「睡眠」と「死」の二つに焦点をあてて授業を展開する。介護現場で求められる知識を深め、援助の意義を理解する。サービスの提供場面における安全への配慮や身体的・心理的側面への配慮等についても学習する。		
回数	授 業 内 容		
1・2	休息・睡眠のしくみ		
3・4	心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響		
5・6	睡眠における気づきのポイント、医療職との連携		
7・8	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方		
9・10	「死」に対するこころの理解		
11・12	演習		
13・14	終末期から危篤状態、死後のからだの理解		
15・16	演習、ケーススタディ		
17・18	終末期における医療職との連携		
19・20	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座 11「こころとからだのしくみ」第2版（中央法規出版）			
参考書：「生命倫理の扉（新版）」小松 奈美子 著（北樹出版）			
視聴覚教材：パワーポイント、ビデオ視聴。プリント資料配布			
成績評価方法：筆記試験、小テスト、グループワーク態度等による総合評価			
学生に望むこと：「睡眠」と「死」に関する基礎的知識および必要な生活援助方法を身につける。 自らの死生観をみつめ、よりよい生き方を模索する。			
担当教員の資格・経歴等：社会福祉士、臨床倫理認定士、人間学修士 相談援助職 30年以上			

科目名	医療的ケアⅡ (分野別知識と実施手順)	講師名	渡部 美奈子
授業形態	講義	履修時間数	21時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科 2学年
授業の目的	医療的ケア（喀痰吸引や経管栄養）の実施にあたり、必要な知識を習得し、実施前、実施中、実施後の観察及び評価を行う力を養う。		
回数	授 業 内 容		
1・2	呼吸器の構造とその働き		
3・4	痰を生じて排泄するしくみ（喀痰吸引とは）		
5・6	呼吸器系の病気について		
7・8	喀痰吸引について 人工呼吸器療法とその吸引		
9・10	呼吸器系の感染		
11・12	利用者と家族の気持ちにそった対応①		
13・14	小テスト①		
15・16	消化器のしくみ		
17・18	嚥下・咀嚼について		
19・20	消化器系の症状		
21・22	経管栄養に必要な知識と援助		
23・24	利用者と家族の気持ちにそった対応②		
25・26	小テスト②		
27・28	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座 第15巻「医療的ケア」（中央法規出版）			
参考書：授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う			
視聴覚教材：パワーポイント・ビデオ・DVD			
成績評価方法：筆記試験・出席状況・提出物・学習態度等による総合評価			
学生に望むこと：ノート・プリントを整理し学習内容をまとめ、見やすくしておくこと			
担当教員の資格・経歴等：看護師、病院勤務10年以上、医療的ケア教員資格			

科目名	医療的ケアⅡ (分野別知識と実施手順)	講師名	渡部 美奈子
授業形態	講義	単位数	18時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科 2学年
授業の目的	医療的ケアは「命を委ねられる」ことであり、医療・介護の倫理、関係法規・実施により生じる危険、急変・事故発生時の対応と事前対策を学ぶ。		
回数	授 業 内 容		
1・2	医療的ケアを行うにあたっての倫理、医療行為に関する法律		
3・4	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施		
5・6	喀痰吸引実施で起こりうる危険、実施後の安全確認		
7・8	喀痰吸引実施による急変・事故発生時の対応と事前対策		
9・10	口腔・鼻腔・気管カニューレ内部吸引の手順解説、デモンストレーション		
11・12	喀痰吸引の事例の振り返り、報告・記録		
13・14	経管栄養実施で起こりうる危険、実施後の安全確認		
15・16	経管栄養実施による急変・事故発生時の対応と事前対策		
17・18	胃ろう・経鼻経管による経管栄養の手順解説、デモンストレーション		
19・20	経管栄養の事例の振り返り、報告・記録		
21・22	試験		
23・24	総括		
25・26			
27・28			
使用テキスト：最新 介護福祉士養成講座 第15巻「医療的ケア」（中央法規出版）			
参考書：事前に各手順書を配布 <u>※必ず熟読し、講義には持参すること</u>			
視聴覚教材：パワーポイント、DVD			
成績評価方法：試験、授業態度			
学生に望むこと：社会資源、教材、メディア等を活用し、知識とその根拠を習得する			
担当教員の資格・経験等：看護師、病院勤務10年以上、医療的ケア教員資格			

科目名	医療的ケアⅢ（演習）	講師名	渡部美奈子
授業形態	演習	単位数	15時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科 2学年
授業の目的	医療的ケアの技術を習得し、安全に実施できる。また過去の講義を振り返り、それらの根拠を確認する。		
回数	授 業 内 容		
1・2	手順解説① 口腔・鼻腔内喀痰吸引		
3・4	手順解説② 気管カニューレ内部吸引		
5・6	手順解説③ 経鼻経管栄養		
7・8	手順解説④ 胃ろうによる経管栄養		
9・10	喀痰吸引・手順解説の振り返り		
11・12	経管栄養・手順解説の振り返り		
13・14	評価① 口腔・鼻腔内喀痰吸引		
15・16	評価② 気管カニューレ内部吸引		
17・18	評価③ 経鼻経管栄養		
19・20	評価④ 胃ろうによる経管栄養		
21・22			
23・24			
25・26			
27・28			
使用テキスト：最新 介護福祉士養成講座 第15巻「医療的ケア」（中央法規出版）			
参考書：事前に各手順書を配布 <u>※必ず熟読し、講義には持参すること</u>			
視聴覚教材：なし <u>※使用教室での環境設定を行うこと</u>			
成績評価方法：実技、授業態度			
学生に望むこと：時間を有効活用し、自己学習を重ねる			
担当教員の資格・経験等：看護師 病院勤務 10年以上 医療的ケア教員免許			